



環境にやさしい容器包装

ユニーでは、セルフサービスの形態をとり、お客様がお買い物する時に商品を手に取って選んでも商品の品質が保たれ、衛生的であり、持ち運びに便利な容器包装を使って販売しています。

ところが、家庭で中身を取り出した後の容器包装が家庭から排出される廃棄物の60%にもなるといわれています。ユニーでは、ゴミの発生抑制、容器包装資源の節約、そしてCO₂発生抑制のために容器包装を見直しています。

容器包装の見直し

1. 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

- ノーレジ袋キャンペーン
- レジ袋無料配布の中止
- ばら売りなど、容器包装を使わない販売
- どうしても使用する容器包装の小型化、薄肉化
- 贈答品などの簡易包装

2. 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

- リサイクルボックスによる店頭回収
- 再生資源として製品(トイレットペーパーなど)やベンチなどにリサイクル
- 使用済みレジ袋を再びレジ袋にリサイクルする

3. サステナブル(持続可能な)原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源(石油)を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

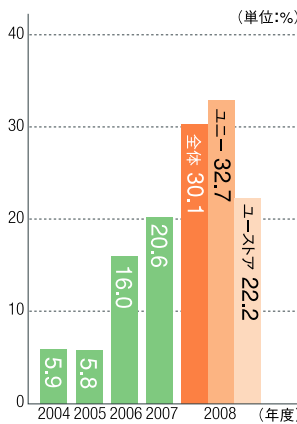
- バイオマスプラスチック製容器の使用
- 使用済みバイオマスプラスチック製容器のリサイクル

1. 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

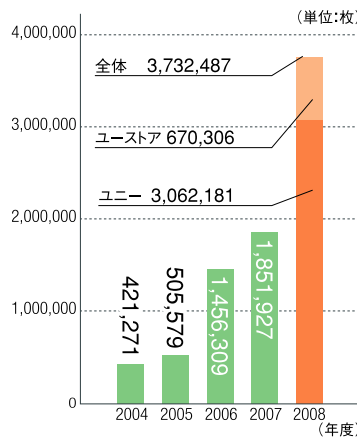
ノーレジ袋キャンペーン

スーパーでのお買い物に薄くてしょうぶで水にも強いレジ袋が使われ始めたのは1960年代でした。その後、ごみ問題が起き、家庭から出る廃棄物削減としてレジ袋使用削減の運動「お買い物袋持参運動」が1980年代に始まり、マイバッグが環境にやさしいお買い物のしるしになりました。そして2007年にはレジ袋無料配布中止(有料化)が各地で始まり、ユニーでも7割以上の店舗で実施しています(現在、食品関連レジで実施しています)。

● ユニー全社のレジ袋辞退率の推移 (単位:%)



● スタンプカード回収枚数 (単位:枚)



● ユニー全社のレジ袋使用枚数 (単位:千枚)

2004年度	326,067	
2005年度	340,611	
2006年度	333,630	
2007年度	310,559	
2008年度	ユニー	228,508
	ユースタ	80,714
	全体	309,222

● 容器包装リサイクル法への対応

2004年度	2億135万円
2005年度	2億5,487万円
2006年度	2億7,322万円
2007年度	2億9,729万円
2008年度	2億7,978万円

● レジ袋使用量・重量の推移(全サイズのレジ袋の重量) (単位:t)

2004年度	従業員全員にマイバッグ配布	2,242
2005年度	愛・地球博エコマネーに参加	2,195
2006年度	ノーレジ袋キャンペーン開始	2,075
2007年度	レジ袋無料配布の中止	1,818
2008年度	ユニー	1,399
	ユースタ	452
	全体	1,851

レジ袋削減への取り組み

1989年に愛知県一宮市で「使用済みのレジ袋を再び使用しましょう」という、お買い物袋持参運動を開始しました。



お買い物袋持参運動の説明を受ける従業員 (1989年11月 サンテラス一宮店)

2001年からは「何度も使えるレジ袋代わりのマイバッグ」をスタンプカードと交換で差し上げるマイバッグキャンペーンを始めました。

